

Ch. 15

Good vibes: Insights into belief in mental telepathy.

波長の一致:テレパシーに関する信念への洞察

In Abelson, R. P., Frey, K. P. and Gregg, A. P. (Eds.) *Experiments with people. Revelations from social psychology*. Lawrence Erlbaum Associates.

元論文 Ayeroff, F., and Abelson, R. P. (1976) ESP and ESB: Belief in personal success at mental telepathy. *Journal of Experimental Social Psychology*, 36, 240-247.

Journal of Personality and Social Psychology, 34, 240-247.

Rep. 小森めぐみ.

BACKGROUND

- ❖ 社会的状況に対する私達の反応は、状況をどう解釈・構築しているかに応じて変化する(第4章参照)。特に状況が見慣れない場合・曖昧である場合には、私達の状況の理解は歪みがち
例) 映画「E. T.」
地球外生物 E.T.は、彼を見つけた少年にとっては愛すべき友人だったが、疑い深い大人には不吉で醜い生物にしかうつらなかった。
- ❖ 理解不能でなれない状況に陥ると、人は自分の今までに見聞きした経験を元にして状況を解釈し、対処のしかたを決める。本研究では、理解不能な不思議な現象として、テレパシーを扱う

ESP と ESB

- ❖ テレパシーの存在の是非を扱うことは魅力的だが、それと同様に、“テレパシーは存在する”という信念も非常に魅力的なトピック。
- ❖ Ayeroff and Abelson (1976)はこの信念を ESB と命名し、ESB が存在する理由の一つは、日常生活での社会経験の成功がテレパシーと似ているためであると考えた。

ESB に影響を与える要因

- ❖ テレパシー：コミュニケーション手段をもたない人間同士が情報をやりとりする
- ❖ けれども、この経験は全くなじみが薄いわけではない
例)恋愛、仕事、スポーツで、どうやったかわからないけれど相手の気持ちがわかった経験
- ❖ これらの神秘的な対人的関係と不思議な感情＝波長の一致(good vibes)。テレパシーが生じそうな状況の中で波長の一致の経験を実験的に操作できれば、ESB は変化すると予想できる
- ❖ Langer(1975)によると、人は偶然の状況でも関与度を高めると、自分がその状況を統制していると考えやすい(e.g., Strickland et al., 1966)

☆著者は、アシスタントの Ayeroff と共に、テレパシー状況における波長の一致と状況への関与度を操作することで、ESB が変化することを実験的に検討した

WHAT THEY DID

実験参加者 大学生 32 名 (ESP を強く信じている人、疑っている人、中立的な人を含む) がペアをつくり、くじをひいて送り手と受け手の役割に割り当てられる

実験状況 廊下を隔てて二つの防音の部屋が向かい合っており、廊下からはマジックミラーを通して受け手・送り手が見えるが、お互いは見聞きすることはできない。実験者は参加者のコミュニケーションチャンネルを開通させるスイッチを持っており、送り手の座っている部屋のテーブルには、受け手の座っている部屋のテーブルにあるランプのスイッチがある。送り手は自分が印象を心的に投影している間、スイッチを押すことになっていた。受け手も送り手も一山のカードをもっており、それぞれのカードには具体的な物体が一つ描かれていた

手続 送り手がカードに書かれたシンボルに集中してそれを伝達したあと、受け手がそれが何であったか答えるというトライアルを 1 ブロック 25 試行で 4 ブロック (50 試行後に役割を交換) 行った。本番の前にウォームアップ試行を 5 試行行った。

独立変数

① 関与¹

高関与条件: 送り手は受け手と一緒に使用するシンボルを自分で決め、テレパシーを送る前にカードをまぜることができる

低関与条件: 送り手は受け手が見ている前で使用するシンボルが何か告げられ、テレパシーを送る前にカードをまぜてはいけない

② 波長の一致経験

経験あり条件: ウォームアップ試行の間、インカムが開通した。送り手はシンボルのイメージを伝達する際、名前や特徴を声に出す。受け手は送り手の言葉それぞれに反応する。

例) 送り手「これから蜂に注目します。今蜂の体の黒と黄色の縞々をイメージしています。それから目と小さい触角、マリーゴールドの花の上を飛んでいる様子... 今私は自分の精神力をすべて蜂に注いでいます。」

受け手「今蜂のイメージを受け取っています。今蜂の体の黒と黄色の縞々をイメージしています。花の上をとんでいる様子とかも。これらのシンボルの中では、あなたは蜂のイメージを送っているのではないかと思います。」

送り手「あたり！」

◆この条件は物体のイメージの交換につながるだけでなく、擬似成功経験として機能した。

❖ この条件のウォームアップ試行は手続きの特徴上、送られたイメージを誤ることはないが、参加者はそれをテレパシーのなせる業と誤解すると考えられた

経験なし条件: ウォームアップ試行の間インカムは開通したが、イメージについて話すことは許されず、単に自分のイメージしたものを書き留めるという作業を行った。

☆それぞれの要因はどちらも ESB を高めると予想された。

¹ これまでの実験は単純で一般的なシンボル(○、■、+など)を書いたカードを使用していたが、そのような課題では動機が高まらないし、よいテレパシー結果が見られないため、より生き生きとした新しいシンボル(ぼうし、目玉焼き、ナイフなど)を使用すると伝えられる。

従属測度

それぞれの試行のあとに、テレパシーが成功したかが尋ねられた。試行が成功したかは、廊下にいる実験者が判断した。成功試行数の予測と実際の成功試行数が比較された。

WHAT THEY FOUND

ESPは存在したか？

16組の参加者ペアの正答の平均は1600試行中19.25試行（＜チャンスレベル20%）。他ペアと比べて統計的に有意な正答数のペアも見られなかった。実験の操作も正答数に影響しなかった（p. 180参照）
⇒ESPの存在を支持する結果は見られなかった

ESBはどうなったか？

予測どおり、それぞれの要因はESBに影響を与えた。高関与・一致経験あり条件では56%が正答と予測され（実際は21%）、参加者はテレパシーの存在を信じていることがわかった。高関与・経験なし条件と低関与・経験あり条件では予測数はやや少なくなったが、それでも50%程度のところに位置した。低関与・一致経験なし条件では、正答数の予測はチャンスレベルまで下がった（26%）。

送り手が正答と予測した試行と受け手が正答と予測した試行は一致しなかった。正答の確信と実際の正答率との間の関連も見られなかった。

また、受け手よりも送り手のほうが5%多く正答数を答えていた。

SO WHAT?

- ❖ 心理学的な因果関係に関する知識は極めて乏しい(Nisbett & Bellow, 1977; chap. 1)ため、状況を誤解して、単純化してしまう場合がある。
- ❖ その結果、実際にはまわりにある手がかりを感知しただけなのに、離れた場所の出来事を予見したと誤解してしまう
例)ESPを熱心に信じるある女性
ある日彼女は2ブロック先で働く土木作業員の夫の死を予告した。しかし、遠くで聞いた衝突音と夫の死を結びつけただけかもしれない。夫妻が最近不仲であったことも彼女が夫の死を予測（希望）しやすくしたのかもしれない
- ❖ 不可思議な現象の発生は、実は日常生活がもとになっている。テレパシーも微小なシグナルへの感受性の高さを示しているだけ。
- ❖ 社会心理学者は他の科学者とは違って、ESP実験にどんな誤りが生じやすいかわかっているのに、ESPに懐疑的。

AFTERTHOUGHTS

ESP研究はどうなっているのか？

- ❖ 超心理学に関する研究は盛んだが、再現可能で一貫性のあるものは少ない。
- ❖ ESP論者たちはチャンスレベル以上の結果が見られる研究を重視し、そのような結果は超自然的

な観点からしか説明できないと考える。しかし、そこに論理的な説明や存在意義の説明・類似の結果をもつ研究の紹介はない

- ❖ ただし、いんちき呼ばわりしたり無視するほかに説明がつけられないような研究結果も多く見られる (Hansel, 1980)
- ❖ もし本当にテレパシー能力が少しでも存在しているのであれば、それは人間の能力に関する理解を大きく揺らがせるものである
- ❖ しかし、テレパシー能力の強弱で人を分類することはできないし、ESPの実演は非常に不規則例) ユリゲラー

ESB 研究はどうなっているか?

- ❖ 超自然現象の存在に答えを出せないまでも、超自然現象に関する信念に影響する要因は検討可能
- ❖ 研究全体では一貫する答えはまだおらず、双方が主張に一致しない結果を合理的に説明しようとやっきになっているのが現状 (Ditto & Lopez, 1992, see chap. 4)
- ❖ しかし、ESP 信者とそうでない人の間にパーソナリティの違いは見られない。芸術家—科学者の次元で違いが解釈可能とする研究もある (Parker et al., 1998) が、その次元の違いが超能力のどの側面にきくかが説明できていない

では、ESB に影響を与える要因は?

- ❖ 曖昧・奇妙・不気味だが、日常と重なる部分もある状況が、超自然能力の存在を示しやすい
- ❖ 状況を明確に解釈することができない場合、その状況は参加者の過去の経験に一致するように解釈される 例) 突然悪いことをしたくなる時、それを悪魔の誘惑だと考える
- ❖ 先行する経験によって何かに没頭し続け、それに応じて周囲を解釈するようになる場合もある (nuclear scenes と呼ばれる。Tomkins, 1962) 例) インクのしみに裸の女性を見た精神疾患患者
- ❖ 現在を過去の延長と考えて社会的関係を解釈していく pre-emptive metaphor という概念も臨床家のあいだでは重要。しかし、これらの概念が実証的に検討されるようになったのはつい最近

Andersen and Berenson (2001)

参加者は、重要他者について記述した後、妨害課題 or 遅延をはさんでターゲット人物について学習(参加者自身が書いた記述の一部も含まれる)。最後に文を出してそれがどちらの人物を記述したものなのか思い出してもらおうと、重要他者についての記述文をターゲット人物についての記述文と誤ることが多かった。

⇒この結果は既存のスキーマへの同化効果であり、トップダウン処理の一つ (Higgins, et al., 1977; see chap. 14)。ボトムアップ処理はその反対で、スキーマを現実にあわせて調整する。

トップダウン処理は知的好奇心や資源が欠乏している際に生じ、ボトムアップ処理は注意深い処理を行っているときに生じ、私達は二つのモードを状況に応じて使い分けている (Stevens & Fiske, 1995)

REVELATIONS

我々は曖昧かつ新奇な状況に遭遇すると、その状況に一見すると類似しているような過去の経験をガイドとして用い、その結果、不当な推論を行ってしまいがちだ。例えば、テレパシーの能力についての信念は、他者との親密なレポート (波長の一致) の経験によって強まりうる。